

巡検・セミナー開催のご案内

■ 春の巡検は関口教会 (文京区、4月初旬予定)

テーマ:「関口教会とその周辺 (仮称)」

2013年度第1回の巡検は文京区の関口教会周辺を予

定しております。江戸川公園、椿山荘、早稲田などを巡るコースを検討中です。また、成増～高島平周辺の赤塚植物園、東京大仏、板橋区立郷土資料館などを巡るコースも検討中。詳しくは次号 (3月初旬発行予定) のICICニュースをご覧ください。

展覧会情報

絵図・古地図で見る村の姿

会場 坂東市立猿島郷土館

電話 0280-88-8700

期間 10月20日～12月16日

広島路面電車100年

会場 広島市郷土資料館

電話 082-253-6771

期間 10月20日～12月16日

古地図・古絵図で見る諏訪

会場 諏訪市博物館

電話 0266-52-7080

期間 10月27日～2013年1月14日

交通科学博物館開館50周年記念展

特急百年～時代と共に駆ける～

会場 交通科学博物館

電話 06-6581-5771

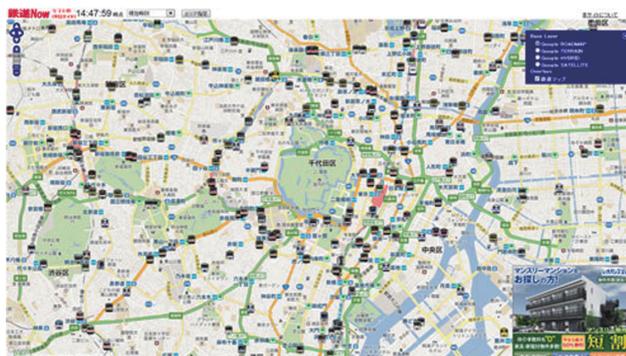
期間 10月13日～2013年1月27日

mini地図NEWS

電車が今どこを走っているのかが地図上でわかる

「鉄道Now」

「鉄道Now」(<http://www.demap.info/tetsudonow/>)は、運行予定情報をもとに、電車や新幹線などのアイコンがGoogle Map上に表示され、進んでいく様子を見ることができるサイト。「停車中」か「走行中」の情報に加え、「各停」「急行」といった運行種別も示されるので、今どこでどんな列車が走ってるか分かる。「鉄道Now」は、日本国内の路線に対応しており、平日ダイヤに関しては表示時間帯を選択することもできる。現在の表示はダイヤをもとにしているため、実際の鉄道運行地点とは異なる場合もあるとのこと。(マイナビニュース)



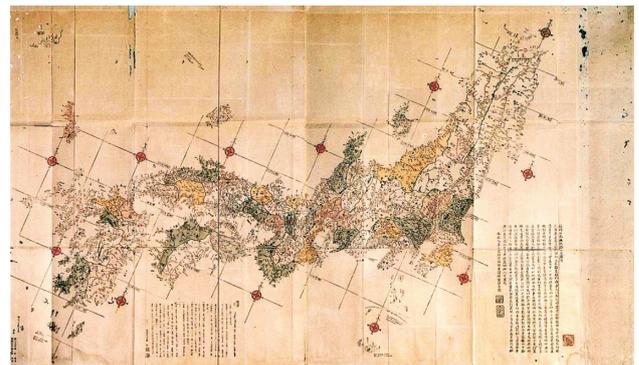
東京駅周辺の広域地図。電車がうじゃうじゃ走っています。

江戸時代に地図 長久保赤水、銅像に

高萩市が誇る江戸時代中期の地政学者で、緯度を示す緯線 (横線) と方位を示す方角線 (縦線) が入った先進的な日本地図を作った長久保赤水 (1717～1801) の銅像と、陶板にした地図が、JR高萩駅西口に完成した。

幼少時の不幸や学者時代の不遇にもめげずに功績をあげた赤水と、東日本大震災からの街の復興を重ね合わせ、市民らでつくる実行委員会が建てた。

銅像の碑文などによると、赤水は農家に生まれ、幼い頃に弟や母、父を相次いで亡くした。40代半ばには、時代を先取りした研究が批判され、学者の道をたたれそうになった。しかし、努力が報われ、水戸藩第6代藩主の侍講になり、地理学や天文学などを教えた。東北や九州を旅し、地元民らの情報をもとに測量することなく、日本地図を作った。(朝日新聞)



地図絡み

第51回 グアムから島々を北上すると伊豆大島

帝京大学理事 井口悦男

いま、太平洋上南の島は、オセアニアは、と言うと、タヒチ、フィジー、トンガ……そしてハワイを思い浮かべよう。ところが、ぼくらの子供の頃、第2次大戦終了までは、日本領(委任統治地)であった「南洋群島」(諸島)が該当していた。

その上、頭に描き出される図として、狭い国土の、本来の「日本列島」に比べ、とてつもなく広い枠で囲まれた、赤道近くの海上に台型の境界線で表わされた地域であった。その広い範囲に粟粒のような島々が、多くのかたまりとなって分布していた。東はマーシャル、西はパラオ、北はマリアナ、南はカロリン各諸島というぐあいに、境界線近くの各隅に寄り散在していた。

地図上に描き出された、広い海上にまたがる境界線の台型が、極めて特異な線引きとされていることが、日本の南洋諸島を思い出すとき忘れられない印象として残されている。

言うまでもなく、北のマリアナ諸島列の南端の島、グアムがポツンと1島アメリカ合衆国領であったことによる。広い日本領枠のなかに、この島周囲を囲む、ごく狭い境界枠を設け、表現する図も見られたが、二重枠境界線としないで、広い枠の一部を北西部分について、グアム島まで内側に大きくくびれた形に引き、日本領域外とする方式は、非常に強い境界線表現として定着させた。(図1)

合衆国の太平洋を越える世界戦略を物語る証としての島のひとつで、ハワイ、ミッドウエー、ウェーキ、そしてグアム、

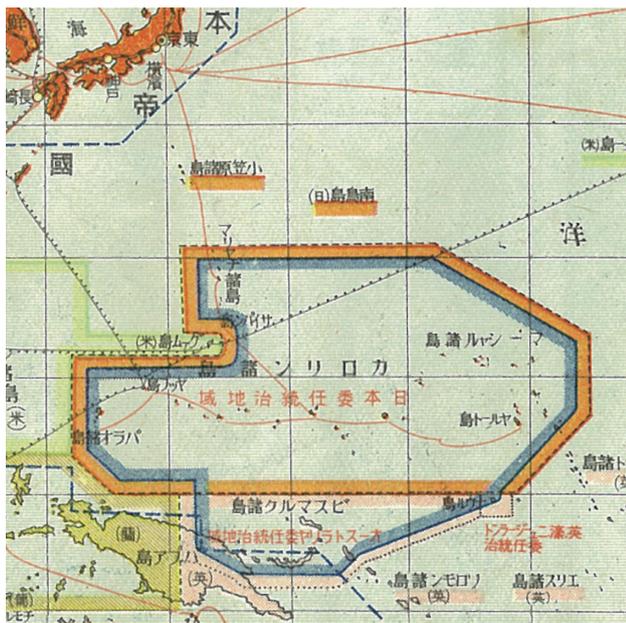


図1 アメリカ合衆国領のグアム島のため日本の委任統治域が大きく食いこんだ特異な境界線で表現されることが多かった。三省堂編輯所編 昭和17年版「日本歴史地図」(新制版) p.61 第37図

フィリピン、中国あるいは東南アジアと結ばれる。帆船時代の寄港地として確保されて以来、航続距離を大幅に延長させた航空機時代に入っても、軍事基地列としての重要性はゆるがない。

2次大戦後、南洋諸島は3つの独立国、すなわち、パラオ、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島となったが、グアム島を含むマリアナ諸島は合衆国領とされたままである。アメリカ領はグアム1島から周辺に拡大され、洋上基地群として強化された。

そのような基地の島グアムは、一方でハワイと同様に、南洋のリゾート地として、とくに日本からは、ハワイ、東南アジア各地と比べ近いこともあって、手軽に味あえる所である。日本から真南で時差ボケの心配ないことも人気をおおる。南洋諸島全体を見較べることも少ないが、じつは一番面積の広い島である。このグアムを除いた日本支配のおり、南洋庁は、グアムの北の続けて大きいサイパン島のガラパンに置かれていた。その南のテニアン島と合わせ、サトウキビ栽培地そしてカナカ族居住地として知られていた位であろうか。消えかかる広大な日本語通用域にあたる。(図2)

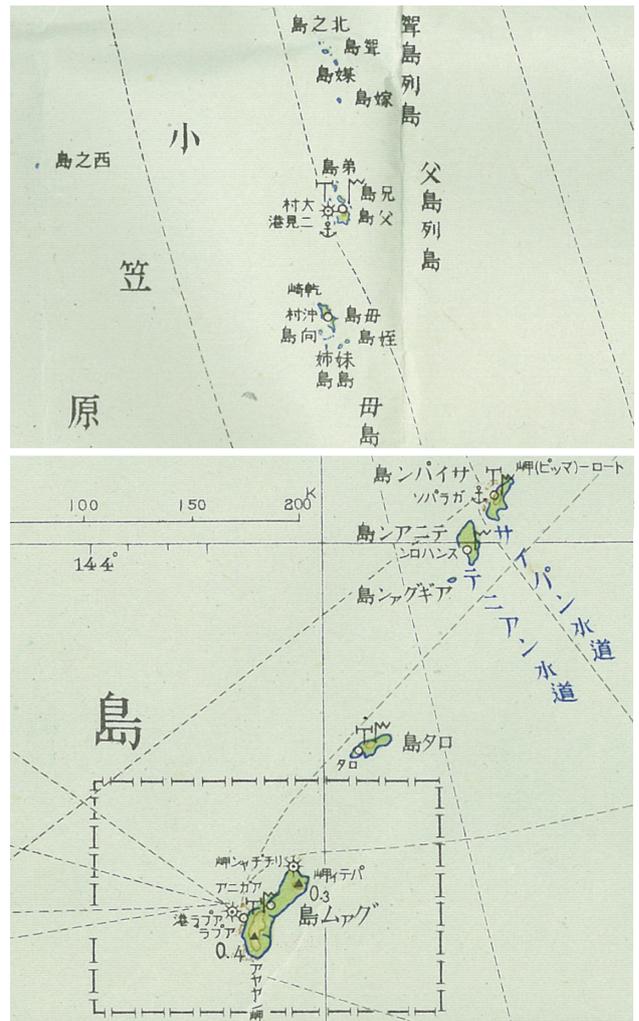


図2 「陸地測量部 参謀本部 小笠原-マリアナ諸島」昭和17年製版 三百万分一汎太平洋輿地図 第39号 (上は小笠原諸島、下はグアム島、いずれも原寸)